

12月
議会定例会能代市と定住自立圏に関する協定について議決
都市からの定住を促進

平成27年12月議会定例会が12月15日から18日までの4日間にわたり開催され、藤里町個人番号の利用等に関する条例の制定や一般会計補正予算など上程された12案件について原案どおり可決されました。



行政報告

◇秋田県軟式野球連盟創立70周年
記念における感謝状について

先般、秋田市において、秋田県軟式野球連盟創立70周年の記念式典が挙行され、この際に全国大会の開催会場となった本町も能代市・山本郡の一員として、積極的に大会誘致に貢献したことが認められ、感謝状の恵贈に浴することとなりました。

このことは、何と申しまして、運営主管として取り組んでいただきました藤里町野球協会の尽力によるものであり、改めて関係各位に敬意と感謝を申し上げます。今後とも良好な施設の管理に努め、利用いただいた各チームの皆様にも「また藤里に来たい！」と思っただけのよう努力して参ります。

◇能代市との定住自立圏の形成に
関する協定の締結について

定住自立圏については、6月定例議会でも報告したとおり、「中心市」と「近隣市町村」が、定住の受け皿として「定住自立圏」を形成し、互いに連携・協力することにより、都市からの定住を促進し、大都市圏への人口の流出を食い止め、圏域全体の活性化を図るというものです。が、今般、能代市による「中心市宣言」を受け、同市との協定について協議を重ねてきたところです。

取り組むべき政策分野としては、生活機能の強化として医療・福祉・教育と産業振興、ネットワークの強化としては、地域公共交通・道路等のインフラ整備・交流や移住の促進とし、また、マネジメント能力の強化では圏域職員の交流や研修としています。

◇平成27年産米の集荷状況について

J A あきた白神藤里営農センターの11月25日現在における集荷実績によると、30kg単位での予約数量81,527個に対し、集荷数量は76,169個（集荷率93・2%）となっています。今年の気象の概況は、気温は高めで推移し、降水量は極端に少なく、日照時間はほぼ平年並みであったことから、作況指数は103となりました。また、一等米比率は95・6%と昨年をやや下回り、能代山本地域の平均96・2%に対して0・6%程低くなっています。

次に、平成28年産米の需要量に関する情報についてですが、11月30日に国から都道府県別の生産数量目標が示されました。それによると、国の平成28年産米の生産数量目標は、今年の数量より8万t

少ない743万tとなりました。秋田県には、前年比1・1%減の413,092tが配分され、面積換算値では、昨年より777ha少ない、72,093haの配分となりました。これを受けて、各市町村への配分は、12月25日に示されることになっていますが、生産数量目標については、秋田県の較差縮小に係る取り決めにより来年度の町への配分は、面積換算では今年より6・2ha少ない440ha程の生産数量目標になるものと思われます。今後、情報が明らかになり次第、町農業再生協議会で協議・検討し、協議会の臨時総会で配分方針を決定することになります。

一方、畑作等の生産状況についてですが、11月末現在、ネギの生産数量は、目標の41・86t、12,364千円に対し、15・81t、5,244千円となり、収量が伸びず、青果物全体の生産数量目標47・67t、15,725千円に対して、19・01t、7,097千円と目標の45%にとどまっており、今後出荷が始まる山うどやアスパラガスなどの売上げに期待するところです。

6年目の出荷となったリンドウは、採花面積が300aで採花本数が522,290本、販売額は25,533千円となりました。現在、首都圏を始め5市場に出荷しており、市場関係者を招いた実績検討会では、色の鮮やかさや日持ちなど好評価をいただき、単価も高めとなっています。今年は、気候の影響で出荷が早まり、7月下旬から8月初旬に出荷のピークを迎えたため単価の下落が続く、